
魔法少女リリカルなのは～とある魔法と転生者

ゼルマリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはとある魔法と転生者

【Nコード】

N3219Z

【作者名】

ゼルマリ

【あらすじ】

神さまのせいで死んでしまった俺は転生したらリリカルなの世界で「常識？なにそれ？おいしいの？」だったり「原作？なにそれ？おいしいの？」といった物語

初投稿ですがよろしくお願ひします警告タグは一応です

星と雷と夜天と月の始まり

ある日1つの事故で死んでしまった人物がいたが本当は神様のミスで死んだことを知りお詫びとして魔法少女リリカルなのはの世界に転生、彼女いない歴13年の人物が転生前のアニメ知識とチート能力を駆使して原作キャラとラブコメやフラグ回避

少年は少女を助けるため平和を捨てた少女は婚約者でもある少年を助けたい思い母に叩かれても全身で受け入れる少女足が麻痺して車椅子がないと動けない少女

??
??

かずかずの物語でつくられた神様の^{システム}奇跡なんて原作崩壊してもその幻想をぶつ殺すby主人公

星と雷と夜天と月の始まり（後書き）

駄文ですがよろしく願いします

たくさんの方の能力を使うかもしれないので使用許可がOKならば感想等で教えてください

第1話転生

いきなりだが単刀直入に言おう俺死にました

ある日中学2年の12月ある事故がきっかけで死んだのですその事故は偶然通りかかった俺に鉄骨が降り注いだのですしかも5本

気がついて回避しようとしたが体がというよりもアキレス腱が急に切れて動けなくなっていた俺は思った

(神よこれは俺に向かってのいじめか?)

とそして俺は鉄骨の下敷きになった

「ん??？」

俺は真つ白な世界で横になっていた(あれかよくある転生か)

「起きました?」

そこには少女が立っていた

「あんた誰?」

「どうもすみませんでした」「はあ?」

少女がおれに土下座した

「私、神と呼ばれている者です

実は私のミスであなたが死んでしまい

あなたに謝罪しようということ

今に至るわけです」

「謝罪してくれているから許すけどこれからどうすればいいんだ?」

「お詫びに魔法少女リリカルなのはの世界に転生しようと思つています」

「リリなのマジで?」神は頷く「はい」

「行きます!」「能力をどうしますか?」

「複写能力でお願いします」「わかりました」

そして俺は身体能力をMAXにし

神に道具について話していた

「能力に必要なやつだけがいい」

「わかりました魔力量ですが」

「Fでたのむ」

「珍しいですね」

他の人達はみんなEX+なのに」

「他は他、俺は俺だ」

「なるほど」

「まあ全ての行動に魔力負荷をかけるけど」
神はその場でずっこけた

「こける理由はないだろ」

「とにかく、いつてらしゃい」

「ちよおま落とし穴はああああああ」

「あつデバイス忘れてた、まっいつか」

そして俺は桜井神羅として転生した

第1話転生（後書き）

誰か私に文才を^{アドバースなど}わけてください

第2話家族の謎？（前書き）

第2話から短くなります

第2話家族の謎？

どうも初めまして桜井神羅といます

神の力で転生して約3年がたとうとじています
たった3年でも驚くことはたくさんありました

一つは幼なじみでもう一つは両親と母の家族に
他にもいろいろあった

ピピピピ「起きなさい神羅起きないと女の子の服を」

ピツ台詞が終わる前に目覚まし時計が止まる「ちっ」「母さん???

扉には女物の服を持った母の桜井イカロスがいた

現在AM4:00

俺は幼なじみの家と共有している道場に行く

「神羅おはよう」「おはよう兄さん」

道場には俺の兄桜井葵がいた

俺が素振り100回程度すると後ろから

「おはよう神羅」

と聞こえたので俺は聞こえた方向を向き「おはよう恭也兄」と言う
高町恭也幼なじみの高町なのは兄

この日

恭也兄が俺にO H A N A S H Iを仕掛けてきた

「永全不動八門御神真刀流高町恭也」

「永全不動八門桜井流崩天術桜井神羅」

「「参る」」

「葵君おはよう」「おはよう」

「お兄ちゃん神羅君となにやってるの？」

「O H A N A S H Iだとさ」

「お兄ちゃん私の婚約者が神羅羅なのが嫌なのかなあ」「多分」

「恭也兄神速は卑怯だよ」

「なのはは渡さん」

「桜井流崩天術居合い奥義雷光一閃」

「ぐああああああ」バタツ

雷光一閃 剣に雷をまとわせ敵を切り裂く

「神羅君おはよう」「おはようなのは」

「「誕生日おめでとうなのは(神羅君)」」

「神羅」なのはちゃ〜んいくわよ」「「はい」「俺となのはは車に乗る」

今日は3月15日俺となのはの誕生日

毎年誕生日になると旅行をするのである

「神羅君は髪をなんで切らないの?」

「髪を切っても次の日にはこの長さになるんだ」そして旅館に着く

「何故なのはと同室なんだ?」

「お父さんとお母さんが決めただもん」

その瞬間ドカン、

と母さん、父さんさらに妹の御琴のいる部屋から聞こえ俺は母さん達の部屋に入る

「兄さん何したんだよ」

俺が見た光景は血まみれの妹肩に剣を刺された母そして妹と同じく血まみれになつた父そして炎の中で立つ兄

「????????」「答えるよ」

「俺の母はイカロスではない」

「何を言つて」

「俺の母はイカロスではなくジェノバだ」

「ジェノバ????????母さんの研究室のあれか!」

「その通りだ」

第3話母の隠し事（前書き）

とうとう魔法に触れることができた

第3話母の隠し事

葵 side

「神羅や御琴はイカロスの血いや違う」

「ダメ葵」イカロスは俺を止める

「聖王オリヴィエとでも言うか」

俺はイカロスがプレシア？テストロッサによってこの世に降り立った聖王オリヴィエのことを話した

「そんな馬鹿な話ある訳

「あつたんだ」?????」

side out

「そんな馬鹿な???」

> 神羅聞こえてる？黙っていてごめんね<

俺は母さんの声を聞いて母さんの方を見る

> 心の中で私の方に向かって話しかけて<

> こ、こう?<

> 今からあなたの希少能力レアスキルの封印を解除するわ<>どうやって?<

> あなたの魔力と一緒に解除するネットワークスを持って私に続いて<

> わかった!<

> 我、混沌を滅ぼす者なり<

「我、混沌を滅ぼす者なり」

> 契約の元、調和の力を解き放て<

「契約の元、調和の力を解き放て」

> 月は力を桜は誇りを<

「月は力を桜は誇りを」

> そして勝利の心は<

「そして勝利の心は」

体の中に力がいや体の中の力が目覚める

「>この胸に<」

俺と母さんの声が重なる

「>この手に魔法をヴィクトリハートセットアップ<」「setu
p」

>イメージして自分の魔法を制御する武器と自分の身を守る甲冑を<
俺はすぐさまFFXの主人公の服をイメージする
武器はFFVIIの片翼の天使の剣とクロスミラーージュをイメージ
する

「イメージ認証」俺の服がイメージどおりになる

「葵、俺は、お前を倒す」

「剣と銃の組み合わせかお前らしいな」

「やられるよ」キーンキーン

「がっ」

「いまのお前では俺は倒せない」

俺は葵が背を見せた瞬間

意識を手放した

目が覚めたらなのはが涙目でおれの顔を覗いていた

「なのは此処は」「病院だよ」

俺は、母さんと父さん、妹が死んだことを聞かされ

俺が一週間寝ていたことも知った

意識が戻った俺はすぐに退院した

葬式は挙げずに異界送りをしただけ

そして新たな事件が4年後起ころうとは

幕問原作開始時の設定（前書き）

とうとう来たこの時が???????

あるえ?どこからか黄色の極太光線が（ry

幕間原作開始時の設定

神「作者のくだらない話のはっじつまつるよ〜〜〜〜〜」

ゼル「何がくだらない話じゃポケー」

な「題名どつり主人公の設定を暴露します」

神「なんか恥ずかしいな〜／＼」

ゼル「じゃスタートです」

桜井神羅

3月9日生まれ（転生前） 3月15日生まれ

歳13歳 8歳

性別男の娘

髪の色金色

瞳の色赤と翠のオツドアイ

身長なのは達と一緒

体重 同じ

魔力光黒色 虹色（聖王覚醒時）

魔力量F（3歳） SSS（たった5年で）

身体能力EX

知能EX

状況把握EX

気配察知SSS

気配抹消SSS

運命（必ずゴタゴタに巻きこまれる）

幸運F -（上条 麻以上に不幸）

レアスキル
希少能力

複写能力????記憶にあれば何でも複写?改造?融合可能

聖王の鎧????Sランクまでの砲撃を無傷で耐えられるしかし瀕死
状態もしくは聖王覚醒状態でも自分の意志で発動できない

????（第4話ぐらいで判明）????とあるロストロギアの細胞ら

しい能力は不明

??? (同じく第4話で判明) ??? とある星に流れている星の血らしい同じく能力は不明

自動発動能力 (複写)

完全記憶能力??? 見た物もしくは人を完全記憶する能力現在魔法導書10万3000冊と転生前の記憶さらに闇の書(0ページ)を所有中

デバイスヴィクトリハート???? (制作中)

道具

退魔剣^{オーディンソード} 真名調和されし聖なる剣

真名解放時斬り付けた人又は物を蘇生又は治療できる代わりにその者の怪我の痛み分ダメージを受ける (作者オリジナル)

魔王剣^{カオスブレイド} 真名混沌に侵された邪なる剣

真名解放時斬り付けた物又は人を死に追いやることができるデメリットなし (作者オリジナル)

リザルトプレート

さまざまな部分に特化した姿になる (まだ発動不可のドレスフィアがある)

魔法術式古代ベルカ式

性格フェイト? テスタロツサに似ている

好きな物甘い食べ物、かわいいもの

嫌いな物女装 (時々諦めて着ている) 告白してくる男子

特技料理 (高町家と並ぶ)? 声帯模写? 物作り? ハツキング

中学2年生の12月のある日神の手違いで死亡お詫びとして魔法少女リリカルなのはの世界に転生。転生後の体は髪は膝ぐらいまであり金髪さらに赤と翠のオッドアイのため銀髪に変装魔法で母親がごまかした瞳はカラーコンタクト (赤) で揃えている (翠もあるらしい) 髪の毛は運動する時ポニー? サイドポニー? ツインテイルのどれかにしている母親が亡くなった日に母が聖王オリヴィエということを知る一応管理局類以外 (デバイスマイスターを除く) の免許を

持つ

実はエンジェロイド

イメージCV櫻井孝宏

(FINAL FANTASY VII ADVENT CHILDREN
クラウド? ストライフ役など)

神「どこからつつこめばいいのやら」

な「確かに」

ゼル「ふっ計画通り?????」

神「イラつくから超電磁砲」

ゼル「うにゃああああ」

な「作者さんは気絶しちゃたしこの辺で」

な「See you」

神「Next storyで会おう」

「バイバイ」

ゼル「ま、また?????会い?????ましようガクッ?????」

幕間原作開始時の設定（後書き）

作者の一言感想
「神羅まじチート」

第4話時間スキップっていいよね!! (前書き)

原作スタート記念のオープニングテーマソング(無印編はずっとこれ)

OP

ETERNAL BLAZE

歌 水樹奈々

第4話時間スキップっていいよね!!

あれから2年経って俺となのはは私立聖祥大附属小学校に入学更に2年が経った

ここまで大変だった

母さん達が死んでからすぐに土郎さんが仕事で意識不明の重体になり治るまで何度もなのはに襲われた(何故か性的な意味で)

入学したはしたで金髪の女の子が紫髪の女の子をいじめていたのでなのはが介入し大喧嘩そして俺のO H A N A S H Iで鎮圧そして俺以外は親友となった

えっ?俺は親友ではないか?って?それにはノーコメントだ

学校で俺は何故か長門 希に似ていると言われている

「神羅君一緒にお弁当食べよ」

「?????わかった」

「なのは一緒に弁当食べよ」

「いいよアリサちゃん」

この女の子はアリサ?バニングス1年生の頃なのはと大喧嘩した女の子だ

お金持ちの娘さんでお嬢様

俺のO H A N A S H Iがトラウマになりかけた性格を一言で言うと「ツンデレ?」

シュツスカ

「ツンデレじゃないわよというか当たりなさいよ」

「?????じゃあ当てろよ」

しまったつい口にてしまった

「なのはちゃん私も」

「いいよすずかちゃん」

この子は月村すずか1年生の時アリサにいじめられていた女の子アリサ同様お金持ちの娘でお嬢様

性格はいつもなんかオドオドしている

「そついえば神羅の名字を聞いたことないわね」

「確かになのはちゃん教えて」

俺は耳を塞ぐ準備をする教室だから全員驚くだろうな

「えつ神羅君の名字は桜井だよ」

ピタッ教室の全員の時が止まると同時に耳を塞ぐ

「……ええええ（な、なんだつてえ）」「……」

予想通りみんな驚きを隠せなかった

俺はすでに屋上に行き弁当を食べていた

手にはプロジェクトF？A？T？Eと書かれていたレポート

内容は

「3月15日息子が生まれ私は息子に2つ物をいれた1つ目はロス
トロギアジェノバの細胞

これのおかげで所持魔力が二倍になった

2つ目は地球に流れる星の血ライフストリーム

これのおかげで召喚獣を呼べるようになった

私は息子に神羅と名前を付けた」

というものだった

学校が終わりなのは達は塾のため別れた

原作通りだとこの日でユーノとなのはが出会う日だ

するとなのはから電話がかかってきた

着メロはいままでのであらずじ

「もしもしなのはかどうした？」

「今すぐ動物病院に来て」

「わかった」

いろいろとあつて夕食を済まして宿題を済ました時

>誰かこの声が聞こえる人お願いです力を貸してください<

俺はそれを聞いてユーノのいる病院にレポート（白井黒子の能力）
を使う

「さ〜て原作の始まりだ」

第4話時間スキップっていいよね!! (後書き)

ゼル「後書きヤッファー」

神「お前はマ オか!」

ゼル「携帯の着メロがいままでのあらずじつて」

みゃーみゃーみゃんころじーに人類みやとれびあーん

神「もしもしあなのはかなに?」

な「なんか変な夢を見たの」

神「声の聞こえたとこに行ってみれば?」

な「ありがとう神羅君」

ゼル「という訳で出ました新能力?」

神「何故に疑問符」

ゼル「紹介スタート」

ジェノバ細胞??? 聖王のゆりかごの次の最強のロストロギアの細胞これを持つ人は所持魔力が二倍になる

神羅の場合SSS×2||EXとなる

ライフストリーム??? 地球に流れる星の血これを持った人はマテリア赤マスタ―召喚の効果を得る

ゼル「感想や意見などをお待ちしておりますとしどし送ってください」

第5話ジュエルシード暴走（前書き）

しまったああああああああああああああああああああ紅白の水樹奈々様の歌見
逃したああああ

あつ新年あけましておめでとございませう
今年もよろしくお願い致します

第5話 ジュエルシード暴走

「よっと」

「き、来てくれたんですね」

俺は瞬間移動でユーノが居る病院に飛んだら変な化け物に襲われま
した

「ちっどうすればいいんだ」

「これを使ってください」

ユーノはそう言ってレイジングハートをだす

「おわっ！」

その瞬間化け物にユーノと俺に分担させられました

「ちっ起きろヴィクトリハート」

「????おはようございますマスター」

「セットアップ」

「set up」

俺はF F V I I A D V E N T C H I L D R E Nのクラ ドの服にイ

メージを変える(武器は3歳の時のまま)

「グアアア」

「眠れ」

「メテオレイン」

化け物に星が降り注ぐ

「封印」

「シーリング」

「封印すべきは忌まわしき「グアアア」ちっ」

「神羅君!!!」

「なのは俺がこいつを止めている内にそのフェレットから話を聞
け」

「うん」

なのはside

どういうことかわからないけどフレットさんから話を聞こう

「私は何をすればいいの？」

「これを持って僕に続いてください」

「わかったの」

「我、使命を受けし者なり」

「我、使命を受けし者なり」

「契約の元、その力を解き放て」

「えっと契約の元、その力を解き放て」

「風は空に星は天に」

「風は空に星は天に」

「そして不屈の心は」

「そして不屈の心は」

「この胸にこの手に魔法をレイジングハート、セーットアープ」

「

side out

さて役者も揃ったし本気で殺るか

キンツ

俺はヴィクトリハートを鞘に収める

「天と地をさまよう者よ全てを滅ぼし空をも滅ぼせ、ムーンライト」

俺の目の前に魔力が集まっていく

「ブレイカー」

俺は魔力の塊に抜刀する

「グアアアア??????」

「いまだなのは」

「リリカルマジカル封印すべきは忌まわしき器ジュエルシード」

化け物にXXIというシリアルが出る

「ジュエルシードシリアルXXI封印」

「終わったか？」

「うん！」

「じゃあ逃げるぞ」

「えっ？」

耳にけから始まってつで終わる人が乗る車の音が聞こえる

「ご、ごめんなさい」

俺となのははバリアジャケットを外しその場から逃げる

すぐ近くの公園まで逃げて来ました

「はあ、はあ、はあ」

「なんだなのはもう疲れたのか？」

「神羅君私が運動ダメなこと知ってるはずなの」

「そうだった？」

「そうなの」

俺となのはは家に帰り士郎さんと桃子さんによる説教並びに恭也さんのO H A N A S H Iまあ返り討ちだけど

そして原作1話目は終わりユーノはなのはの家で飼うことになった

?????side

> 誰か僕を見つけて?????聖王陛下?????<

第6話やじっしてじっになった(前書き)

今回は神からあるロストロギアの登場です

第6話やじつしてこうなった

おはようございますクラウド・ゼーゲブレヒト桜井神羅です

はい死神の眼で俺を見たらハイモニクス

俺の真の名であるクラウド・ゼーゲブレヒトが判明

今日は学校を休んではやてに会いに行こうと思います

でなのは達が乗ったバスがでるまで熱を出している演技でやり過

しAM9:00

俺は外に出て図書館を目指す

「！！結界？魔眼まごうがんLv1解除?????これは神力だな・ん？」

俺は上を向く

向いた瞬間口の中に何か入り食道を通っていった俺は胃袋のある場所を見るそこには

「レリック」と出ている

「か、体が・あ、熱い・ガアア」

俺は煙に包まれ体の異変が収まり一言言っ

「いったいなにが起こっているの？」

「つてあれ？言葉が女言葉になってる

私は体を見ると体が女体化& amp・約17歳ぐらいになって聖王の鎧を身に付けていた

「どうしてこうなったの？」orz

「(こんな鎧いまはいらぬのに)」

すると鎧が消えリインフォース・アインスの服になる

「(意志によつての着脱が可能?なら)」

次の瞬間俺は元の姿に戻る

空から手紙が一枚落ちてきた

「なにになに」

神羅へ

やっほ〜元気？私は元気だよ

君に少し贈り物をさせてもらったけどどう？きにいった？

あとこの手紙についてる虹色のマテリア3つーつは君の残りは自由にしてバイバ〜イ

あなたをその世界に転生させた神アテネより

俺は退魔剣などが入っている時空間を開けて俺のマテリア以外を放り投げた

第6話どっしてこっになった(後書き)

能力の説明

まじょうがん
魔脱眼

Lv1～4までありLv1は見た物の詳細説明& a m p ; その物の
1分以内の未来が見える

Lv2～4まではまだ不明

マテリア”チャージ”

装備者の魔法などを溜めて他の魔法に上乗せすることができる

次回ははやくとエンカウントの予定です

第7話 夜天と遭遇（前書き）

第7話投稿です
ではスタート

第7話 夜天と遭遇

こんにちは桜井神羅です

今とある女の子に質問責めされています

「ほんまに男の子なん？」

「本当だから」

図書館に入って童話コーナーに

「うん」

とか言っているはやてとエンカウト俺と言っていることを指摘され男ということと話すと

「ええええええこんなかわええのに」

と言われ心が只今 or z & amp; バツシュ & amp; デスをくらいたい気分

ではやての家に遊びに行くことに家にハーモニクスを置いてあるから大丈夫だ

うんだと思いたい

「そっぴや神羅君学校は？」

「通つても意味無いから」

転生前は政府に人をたくさん殺させられて

強制的に少1の時に東大全教科満点合格確定までさせられたしなんて言えない

「でも通わなあかんよてゆうか東大全教科満点確定！？チートやな」

「読んだ????だと????おのれさすが八神家」

「ニュータ プか」

「ニュー イプちゃうわ」

おっと口に出してしまった

でも転生とかは読めないみたいだ why?

都合主義だ by ゼルマリ

なんか電波感じたけど無視

キユイイイイイン

ジユエルシード感じたけど無視

時間が経ってpm5:00

「なあ神羅君今日家に泊まらへん？」

「いいや」

「泊まらへん（涙眼+上目遣い）」

「うっわ、わかった」

「じゃあうち料理作ってくるわ」

「いや俺が作るよ」

「ええようちが作るから」

「その体だと不便だろ俺が作るよ」

「わかった頼むわ」

よし俺は台所に向かう

「うゝんこの材料はオムライスだな」

?????????????????????主人公料理中

「完成」

そのオムライスは輝いていた

「なんでオムライスが輝いているんや」

はやてはそう突っ込みながらオムライスを口に入れる

するとはやての眼から涙が出ていた

「おいしい????めっちゃくちゃおいしいでこれ」

「どうも」

そして一緒に風呂に入り（ロリコンではない）一緒に寝た

明日なのは達どう言おうか考えながら

第7話 夜天と遭遇（後書き）

な「あつとがき」

神「作者なのはがハイなんだが」

ゼル「まあほつとけ」

神「俺の過去の一部を暴露って東大全教科満点合格確定って頭よすぎ」

な「明日神羅君が帰って来たらどうしよっかなあ O H A N A

S H I しよっかなあそれとも休日に襲撃（性的な意味で）しよっか

なあ / / / /

神「なんか（^o^） / フラグが出た気がする」

ゼル「ちつリア充め」

神「なんか言つた？」

ゼル「いやなにも次回は修行の予定」

「「「バイバーイ」」」

第8話修行スペース（前書き）

短いです

第8話修行スペース

「やあ昨日はやての家に泊まってなのはによってさんずの川を渡るとこでした」

「そして今ある場所で修行中です」

「神羅考え事は後っすよ」

「ああそうだな」

「森田ボイスの人と模擬戦する事にし場所は夢の終わり（眠らない街ザナルカンド）つまりこの世界はディシディアオム012の^{ストーリーモード}世界（戦争はない）

キーン

「ティードと俺の剣が何度か交わる」

「今回は魔法厳禁のEXと近接オンリー」

「やるっすね」

「まだまだEXドライブ」

「俺は太刀の正宗から相棒（前世の）ウエポンを出す」

雷光一閃

「おわつと」

「真名解放「日輪を制する剣」」^{ラグナロク}

「俺はティードにきりつける」

ゲシユタルトドライブ（神羅ver）

「雷光一閃、スパイラルカット、ブレイバー、超究武神霸斬、斬・鉄・剣」

「俺は6つの技を放つ」

「ゲシユタルトドライブ」

「負けた」

「模擬戦が終わり休憩中」

「なあ神羅の過去教えてくれよ」

「うん?????いいよ」

俺は過去の話 시작했다

第8話修行スペース（後書き）

次回からは神羅の過去に入ります

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3219z/>

魔法少女リリカルなのは～とある魔法と転生者

2012年1月9日23時51分発行